



3年ぶりのみやぎ県大会

コロナ禍で開催出来なかった「宮城県大会」が、10月16日、塩釜ガス体育館を会場に開催されます。

塩釜市のコロナ感染者数が5千人を超えました。これは、10人に1人は感染している



ことになりました。他の自治体もほぼ同様と思います。他の道院でも拳士の感染や関係者の感染が伝えられています。しかし、道院が感染の場となったところは未だありません。今まで通りの感染防止策をとり修練を続けたいと思います。

大澤隆管長 縁起

備えは日々の修練の中に



9月に入りました。日本は昔から自然災害が多く起きており、この時期には過去、大きな震災や台風、大雨による被害が起きています。近年はこれまであまり被害がなかった地域にも、突如として災害をもたらすなど、他人事ではなくてきてきているのではないのでしょうか。

開祖は、戦時中の体験から、人が生きるか死ぬかの極限状態の時に、他人を犠牲にしてまで生にしがみつこうとする狂気の状態を目の当たりにしています。その逆に、自らを犠牲にしても他人を助けようと尊い

2022.07.25 仙台杜都道院での稽古で



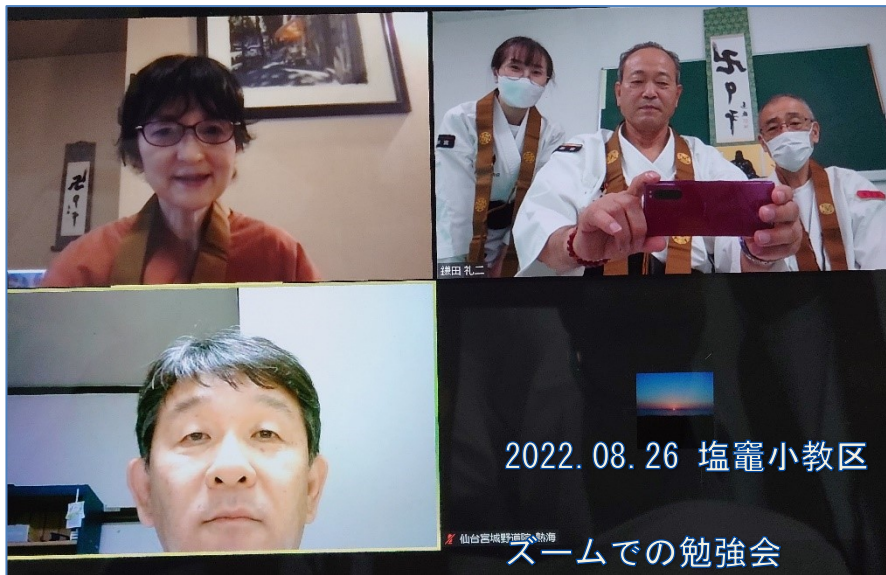
行動をした、人間の霊性の発現も見ており、開祖はそこに可能性を見出しています。このような極限状態に陥らないよう、日頃から備えをするとともに、いざ極限状態にあつても他人と協力し合つて生き抜いていくことが出来る力を養うことが必要です。

私たちにとつて備えとはなんなのでしょうか。それは日々の修練にあります。護身の技術は肉体を鍛え、平常心や胆力を養うだけでなく、有事における判断力も養います。落ち着いて物事を判断しながらも、いざと

今後の予定

- ◎ 9月17日(土) 13:30~14:00 入門式・達磨祭(塩竈道院専有道場)
- ◎ 9月23日(金) 9:30~12:30 宮城県教区研修会(道院長対象)塩竈道院専有道場会場
- ◎ 10月16日(日) 9:00~15:00 宮城県大会(塩釜ガス体育館)
- ◎ 10月28日(金) 19:00~21:00 塩竈教区 僧階取得のための勉強会(塩竈道院専有道場)

いう時にはとつさに動くことのできる心と体を作り上げてくれます。そして、その修練は決してストイックなものではありません。年齢や体力に関係なく、皆で楽しく学び合い、深め合うことのできるものなのです。修練で互いに守者と攻者の立場を入れ替えながら行う組手主体の修練は、人との関係性を深めてくれます。ここで学ぶ人間関係の構築が、有事における協力関係を築くときに役立つのです。



とかくコロナにより、人と会わなくても物事が回るようになったと感じる方もいるかと思えます。しかし、それが通用するのはあくまでも平穏な日常に限られるのではないのでしょうか。大自然の前で、人間という存在はあまりに小さく、自然災害には無力です。だからこそ、人と関り、連帯し協力し合える人間関係を作り、乗り越えていくことが必要になります。皆さんは修練を通じてどのような備えをしていますか。各地域において災害への備えを万全に整えながら、今月も共に、金剛禅運動に邁進していきましょう。

中国古典 紹介

「直木は先ず伐られ、甘井は先ず竭く」を掲載 『莊子』

樹木はまつすぐで材木に適しているものからまず切り倒され、井戸はうまい水の出るものからまず飲み尽くされてしまいます。人間もそれと同じこと、有用であり有能である人物ほど、つまずいてケガをしやすい。一見、無能で、目立たない生き方をしている人間のほうが、この人生を大過なく生きていけるのだという。

『莊子』は、「意怠」という鳥の例を引いて

いる。

この鳥は、ばたばたと羽ばたくだけで見るからに無能そうである。他の鳥に引きずられてようやく飛びあがり、尻をたたかれてやつとねぐらに帰ってくる。餌をとるときもけつして先を争わないので、仲間はずれにされることもなく、危害を加えられることもないのだという。

人を責めず、人からも責められない。そんな控え目な生き方がもつともよいというのだ。一面の真理かもしれない。

